

## 第 11 回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和 4 年 3 月 28 日（月）

18 時～19 時 30 分

Zoom を用いたオンライン会議

### <次 第>

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

#### 3 報告事項

- (1) 第 10 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

#### 4 会議事項

- (1) 再編実施基本計画について
- (2) 今後のスケジュールについて
- (3) その他

#### 5 その他

- 次回伊那新校再編実施計画懇話会（開催日時等は、改めて連絡）

#### 6 閉 会

## 第 10 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

<b>日時</b>	令和3年(2021年)12月21日(火) 18時00分～19時30分	
<b>場所</b>	長野県伊那合同庁舎 講堂	
<b>出席</b>	懇話会構成員23名	
<b>欠席</b>	田畑和輝、黒河内貴、山田 益、林 裕二	<b>傍聴者</b> 傍聴19名、報道5社(内、オンライン傍聴は1名)
<b>事務局</b>	伊那北高校	山岡教頭(事務局長)、大石教諭、倉石教諭、齋藤教諭、山崎教諭
	伊那弥生ヶ丘高校	藤澤教頭(副事務局長)、唐澤教諭、濱田教諭、春日教諭、原教諭
	県教育委員会	駒瀬室長、田中主任導主事、石井主事、浅井主事
<b>当日資料</b>	第10回懇話会次第、第9回懇話会まとめ、伊那新校 学びのイメージ、伊那新校(仮称)の施設整備について(素案)、上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移(見込)と募集学級数の推移、伊那新校再編実施計画懇話会の現時点でのまとめ、高校生が新校に求めたいこと	

### 会議事項

1 報告	(1) 第9回懇話会まとめ
2 会議	(1) 再編実施基本計画の策定について ①新校の学びのイメージについて ②募集開始年度と想定する募集学級数について (2) その他
3 連絡事項	次回予定(未定 開催日時等は、改めて連絡)

### 意見交換

#### 【再編実施基本計画の策定について】(⇒事務局回答)

##### <新校の学びのイメージについて>

○普通科と特色学科のくくり募集ができない件について、可能性はあるのだろうか。どのような募集になるかイメージが湧かないようではよくない。

⇒現段階で、大学科をまたぐ、くくり募集を行っている学校はないが、より個別最適化を進めるために研究が必要。

○先生も他者との協働を通して成長してほしい。

○生徒の進路希望について、新校の生徒が現在の2校と同じような希望であるとすれば、どんな希望になるのだろうか。現状の、伊那北、弥生の進学就職状況を教えてほしい。

伊那北高校：ほとんどが4年制大学に進学する。伊那弥生ヶ丘高校：ほとんどが進学するが、就職、公務員希望もある。

○コンソーシアムの中で、幼保小中高大との連携をどうしていくかについても考えないといけないのではないか。

○カリキュラムのどこに探究が位置付けられるのかわからないので、わかりやすい図で示してほしい。

#### ◆「伊那新校の学びのイメージ」について、本懇話会としては提案内容を承認

《座長によるまとめ》県教育委員会定例会や県議会に向けて、資料の表現の修正等は事務局に委ねる。資料についてはさらにブラッシュアップをしてほしい。

##### <募集開始年度と想定する募集学級数について>

○6年経てば学びが変わってしまうので、このことも地域の人々に知ってもらわないといけない。

○伊那新校については長野県下のモデル校として進めたいと聞いているが、どうなのか。

⇒伊那新校はソフト面でもハード面でも都市部普通科高校のモデル校となると考えている。

○6年後は、生徒はあまり減らないので、8クラスでは少ない。開校時は10クラスくらいを考えていただきたい。

○新校の学びの鍵は「探究」と「単位制」にあると思う。中学では探究を学級単位で行う。単位制になったときに学級という集団はどうなるのだろうか。学びのイメージがかなり具体的でない校舎建築とも関係する。

《座長によるまとめ》「できるだけ早期に開校してほしい」という意見も踏まえ、別紙「現時点でのまとめ」とおり確認する。⇒承認

#### 【高校生からの発表について】

○伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校の生徒にアンケートを行った。高校生も高校生なりの考えで再編に意見を持っている。

○今までは、なかなか高校生の意見を聞く場がなかったので、高校生の意見を共有する場を設けてほしい。

#### 【事務局からの連絡】

本懇話会の現時点でのまとめを基に再編実施基本計画を策定し、できるだけ早期に長野県教育委員会定例会に付議し、県議会に統合の同意を求める。同意後は、開校に向けた準備を進める。次回の懇話会の開催は、改めて連絡する。

## 伊那新校(仮称)再編実施基本計画

### 1 再編統合対象校

伊那北高等学校、伊那弥生ヶ丘高等学校

### 2 募集開始(開校)年度

令和10年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であること、施設の整備期間等を考慮し、令和10年度を新校の募集開始年度とする。

### 3 活用する校地・校舎

伊那北高等学校

日常行われる教育活動の充実につながる校舎と一体となっている敷地(校地)の広さを考慮し、伊那北高校を新校の校地校舎として活用する。  
併せて、伊那弥生ヶ丘高校の第2グラウンドも有効に活用する。

### 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 普通科6学級、特色学科2学級

※学科の名称等は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

普通科と特色学科を設置し、新たな学びに対応したシステムを導入する。  
上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には8学級程度が想定される。  
※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

### 5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

地域と大学、研究機関等との協働した探究を核とし、個別最適な学びを実現する、「自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦する高校」を構想する。

### 6 統合新校の施設整備について

新校の学びに必要な施設整備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に係る概ねの期間 6年程度を想定

## 自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦する高校

目指す  
学校像

- 「探究」を核とした学びを通して、自己実現と社会貢献を目指す
- 他者との協働を通して、多様な価値観を共有し人間性を育む
- 自主的な活動や創造的な活動を通して、主体性を育む

### 新たな学びに対応したシステム



「探究」をベースにした教育活動  
個別最適な学びを実現する“単位制”  
文理融合した学び・教科横断型授業の展開  
大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び



1年次：必修科目を中心に履修

2・3年次：自分の学びを自分でデザインし、履修する科目を選択

#### 普通科

探究を核として持続的な学びを実現する学科

- 地域課題を基に日本、世界に目を向け、これからの社会の核となる人の育成を目指す
- ◇ 地元自治体など、コンソーシアムとの連携による、ローカルな視点とグローバルな視点で行う探究活動
- ◇ 自らの興味関心や進路希望に応じて選択ができる多様な科目の設置

#### 特色学科

高度な探究により、卓越した学びを実現する学科

- 学問の真理を追究する意欲、社会の課題解決への挑戦心や使命感を持つ人の育成を目指す
- ◇ 大学・研究機関をはじめ、コンソーシアムとの連携による、応用的・発展的な探究活動
- ◇ 課題研究や先進的な探究を行う科目、高度な内容を扱う科目などの設置

### 連携・協働

### 上伊那共学共創コンソーシアム

多様な人々と学び合い、地域課題の解決や地域の活性化・イノベーションの創出を目指すコミュニティ



医療機関



大学



企業



自治体



国際機関



上伊那広域連合

等

## 伊那新校 議会同意後のスケジュール（予定）について

高校教育課・高校再編推進室

### ○今後のスケジュールの確認

#### 1 令和4年度の大まかなスケジュール

##### ○伊那新校再編実施計画懇話会【主に3つのテーマ：校名検討、施設整備、教育内容】

- ・新校の校名の検討を軸に、4回開催予定。進捗状況の報告を基本とする。
- ・第12回：5月中旬～下旬の開催を予定。
  - ①校名選考Ⅰ（選考の進め方等） ②プロポーザルに向けて
- ・第13回：7～8月の開催を予定。
  - ①校名選考Ⅱ（選考方法、広報等） ②プロポーザルの報告
- ・第14回：11～12月の開催を予定。
  - ①校名選考Ⅲ（公募結果の説明、一次選考等） ②教育内容について
- ・第15回：1～2月の開催を予定。
  - ①校名選考Ⅳ（校名候補の決定等） ②教育内容について

#### 2 「新校における学びと空間」をテーマとするシンポジウムの開催について

##### ○目的

- ①長野県の取組を建築・教育界へプロモーションし、広く建築界等に知らしめて、プロポーザルへの興味関心を高める。
- ②発信だけでなく、設計者と各関係者が「対話」することで、提案内容等への理解を深める。
- ③各工程の完了の際など、設計者から進捗状況を報告・発表。生徒や子どもたちから新校での夢を語り合う。

##### ○第1回の内容

- ・プロポーザル周知のため「\*NSD プロジェクトのキックオフシンポジウム」として小諸と伊那で同時開催。長野県の校舎整備についての概要を全国に発信  
※NSD…Nagano School Design の略。県立学校学習空間デザイン検討委員会の報告書を踏まえた施設整備に係るプロジェクトの総称。
- ・パネラー（調整中）  
赤松佳珠子先生（法政大学教授）  
教育関係者 等
- ・オンラインと参集（小諸会場、伊那会場）のハイブリッド

##### ○第2回目以降の主な内容

- ・伊那新校の施設整備の概要、新校の施設に求めること。
- ・プロポーザルの選定案について、業者からの説明 等



# 長野県スクールデザイン 2020（一部抜粋）

～これからの学びにふさわしい施設づくり～

県立学校学習空間デザイン検討委員会報告書より

## 新しい学習スタイルを支援する学習空間のイメージ



### 「学習空間」

人数や形態  
の多様化

課題発見  
調べ学習  
グループワーク  
など



図書館等  
との連携

小教室など

## 地域連携協働室のイメージ

地域の企業の人と学生による共同プロジェクトのプレゼンテーション。高齢者の方や子育て世代の人など、世代を超えた様々な人が来校し、生徒と一緒に考え、何かをつくりあげていける空間。地域の人が気軽に立ち寄れて、生徒と協働し、共創するための地域連携協働室。



### 「共創空間」

企業と学生  
のコラボ

世代を越えた  
交流

協働し  
共創する



地域連携  
協働室